

# 研究所だより

第313号  
2011年10月29日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3016

## <研究協力校研究授業・三崎小4年>－授業者・奥谷 木の实 先生

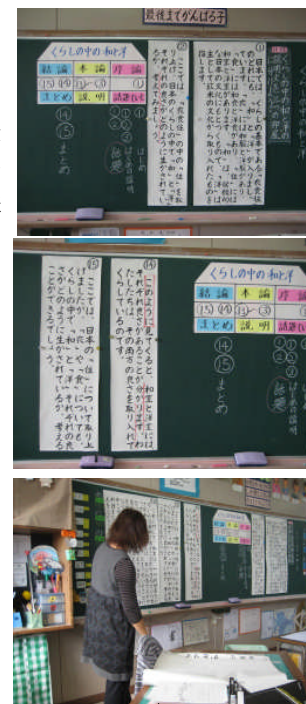
- 1, 単元－「くらしの中の和と洋」
- 2, 目標－①まとまりごとの内容を考えながら読み取ることができる  
②身の回りの「和」と「洋」について調べ、文章構成を考えながら文章にまとめることができる
- 3, 評価基準、指導計画（全12時間）、本時の学習一略
- 4, 準備物－教材文（児童用）、ワークシート、和と洋の写真、授業評価表
- 5, 展開

学 習 活 動	支援【○】	評価【□】
1, 前時の学習を振り返る。	○身の回りにある和と洋について、具体物を使って確認できるようにする	
2, 本時のめあてを確認する。 くらしの中の和と洋の説明文を三つの部屋に分けよう (序論・本論・結論)		
3, くらしの中の和と洋の文を読む。 (1枚にまとめたものを読む)	○めあてを考えながら、段落ごとにはっきり読むようにする	
4, 文章構成（序論）（結論）について考える。 ・個人思考 ・ペアで話し合う ・自分の考えを発表する ・序論（①②）が話題提示であることを確認する ・結論（⑭⑮）がまとめ、筆者のメッセージであることを確かめる	○個人思考後、考えを深めるためにペア学習を取り入れるようにする ○段落に分けて理由も発表し、文末表現で分けられることに気づくようにする。（話題提示についても触れるようにする） ○自分の言葉で理由づけできるように、できるだけ多くの発言を取り入れるようにする ○結論の理由について意見が出ない場合は、「このように」の役割について振り返るようにする	
5, 文章構成をまとめる。本論が説明であることを確認する。		
6, ワークシートにまとめる	□大事な言葉を手がかりに文章構成を考えることができる	
7, 振り返りカード（学習感想）を書く。	○分かったことや考えをまとめて書くようにする	
8, 次時の学習を知る。		

## 授業に関わって感じたこと－研究員・田中 聡子

構成や言葉の押さえは、中学年では難しいと思うのですが、ねらいも最後までぶれることなく、児童が課題に向かってしっかりと思考活動ができていたのに感心しました。これも先生が一人ひとりの実態をきちんと把握して授業をコントロールできているからだと思いました。また、板書についても構造的でどの子も目で見て分かりやすいものだったと思います。授業を見ていない者でも板書を見て、今日の授業の流れがよく分かるものだと思います。

ペア学習も隣同士でしっかり理由を言い合っていましたし、学習規律を含め、日頃の鍛え方が見て取れました。発問も用語（形式段落、序論、本論、結論、文書構成）も児童が理解できるよう説明を加えて使われていましたし、児童も理解した上で反応していました。発問一つ一つがよく精選されていて、今後私も大いに参考にさせていただきたいと思いました。また一人ひとりの実態を把握しているからこそだと思いますが、発問に必要な応じてフォローが付け加えられていて、児童にとっては大変分かりやすいものだったように思いました。



↑  
板書風景

## 学習活動

- T. 私たちの生活に和と洋がありましたね。どんなものがありましたか。  
C. ざぶとん、くっしょん  
C. ナイフとフォーク  
C. はしとフォーク C. 和服と洋服 C. 和室と洋室
- T. くつした、たびなどもありましたね。（実物提示）  
T. 中身は明日からにしてめあてを確認します。考えてから書ける人はそれで書きます。聞き取りで書ける人はそれで書きます。  
T. どんな部屋だったか覚えてますか。  
C. 序論、本論、結論です。  
T. 始め、中、終わりとも言います。  
くらしの中の和と洋の形式段落はいくつありましたか。  
C. 15です。
- <読み>  
T. 序論は何段落か、本論は何段落か、また、結論はどこか、自分で考えてみましょう。（3分）  
C. プリントアウトした教材文を線で区切る  
T. （3分後）隣同士で話し合っ理由も言い合ひましよう。3分間で。  
☆序論を①②としている子 ①②③としている子 ①だけの子 ①②③④の子  
T. 序論は形式段落でどこでしょうか。  
C. ①だと思います。序論は初めだから。  
C. ①②③だと思います。初めの説明とかこれから考えることが書いてあるからです。

- T. これから考えることとは？  
 C. (そのまま読む)  
 C. ①②だと思います。食事のことが書いてある。  
 C. ①②だと思います。今から説明することの話題が書いてあるからです。
- T. Cが③を入れないのは話題を書いてないからですか。  
 C. そうです。
- T. どんな話題？和と洋について考えてみようということですね。  
 投げかけていること、問いかけも序論に入るとすると、②のどの言葉から分かりますか。  
 C. ②を読む。
- T. どの言葉から分かりますか。  
 C. 考えてみましょうの「見ましょう」から分かります。
- T. 話題を投げかけてくれてますね。③はどうでしょう。  
 T. (③を読んで) 何のことが書かれていますか  
 C. 部屋の使い方や過ごし方が違うと書かれています。  
 C. 使い方、過ごし方を説明している。
- T. ②では考えてみましょうと書いてあって、③食も説明に入ってますね。ということ  
 序論に・・・(Cに指名) 入らないということですね。
- T. じゃあ、どこに入る？  
 C. 本論です。
- T. 結論は？  
 C. ⑭⑮です。
- T. 理由は？  
 C. 本論のまとめを書いているからです。
- T. どこからまとめと気づいた？  
 C. ⑭のこのように、(全文を読む)ということからまとめだと分かります。
- T. ⑮は？  
 C. (⑮の全文を読む)ということからまとめだと分かります。
- T. ⑭はどうか考えてみましょう。まとめだと分かる言葉はないですか？  
 C. このように見てくると、本論が終わった後で本論のことを示しているの。
- T. ヤドカリの時も本論までのまとめをこのように書いてあったね。  
 T. 本論は説明が③からだから？  
 C. ⑬までです。
- T. 本論で何のこと？  
 C. 説明です。
- T. 何の説明？  
 C. 「住」のことです。
- T. 説明文は三つの部屋からできています。  
 他にもあるけど、このお話は課題提示で①と②、考えてみましょうという言葉から分かります。⑬も「できます」と説明しています。
- T. 三つの部屋のことを。文章構成、文章の作りとも言います。

\*速記ですから正確な問答を書いたとは言えませんがご了承ください。

## 子どもたちの声ー授業評価表より・学習感想

- A、今日はいろんな先生が来たけど、ふだんどおりにできてよかった。それに、意見が言えて良かった。  
 序論・本論・結論のどん落が分かりました。序論や結論は、1こだけじゃない事も分かりました。
- B、じょろん・ほんろん・けつろんのそれぞれがどこで分けれるかが、この勉強で分かりました。  
 ちがう説明文でも、今日習った事をいかしていきたいです。  
 次もがんばりたいです。
- C、今日の学習で、3つのお部屋に入る、けいしきだんらくが、分かりました。  
 早く次の読みとりをしたいです。  
 じょろんは、話題、ていじ、本ろんは説明、結ろんは、まとめで、何を書いているかが分かりました。

## 先生方の声

- 1, 板書  
 きれい、分かりやすい。よく準備できていた。  
 子どもの意見が残せなかった。流れも分かるように。
- 2, ねらい  
 ねらいは達成できていた。
- 3, 学習規律  
 先生が落ち着いていた。評価も良くできていた。基本を大切にしていた。  
 聞き方、話し方がよい。
- 4, その他  
 読みー指名読みでもよい  
 時間配分ー欲張りすぎ  
 考えるところはもう少し  
 和と洋のいろいろな物など、準備がいい
- 5, 発問  
 分かるように繰り返し言っていた。少し言い過ぎかも  
 話し方、聞き方に重点をおいた発問  
 先生の返しがいい
- 6, 子ども同士  
 自然に関わっていた  
 しっかりできていたがもう少し効果的にできるように

- \*三崎小の校内研はKJ法を取り入れて行っています。  
 ・データをカードに記述  
 ・カードをグループごとにまとめ図解し、論文等にしてい



＜学習のつまずきへの具体的な指導＞－桂 聖、廣瀬 由美子編集「授業のユニバーサルデザイン」より抜粋  
日々の教室活動の中で、こんな子はいませんか。代表的な事例をピックアップ。

### 13、こだわりが強いため、学習活動に参加できないことがある

事例1 Mさんは（小4）、一度決められたら考えを変えない頑固なところがあります。図工の作品はとても上手に仕上げているはずなのに、出来映えが気に入らず、何度もやり直します。勝負事にもこだわりがあったのですが、最近では、取り組む前から勝てなさそうだと感じると、参加したからなくなってしまいました。

#### 指導例 ①出来た部分に目を向け、完全主義（高目標設定）を生かす

理想としている基準が高く、完全でなければ気が済まないMさん。目標が高いこと自体は悪いことではないので、「もう十分でしょう」というような、目標を積極的に低くさせる指導はうまくいきません。そこで、自分の努力した部分を自己評価させます。「この部分がよくできた」「ここは工夫した」「ここは時間をかけた」など、できた部分に目を向けさせることにより、失敗部分に対するこだわりが減ります。

#### ②イライラするかもしれないという「予測」を持たせる

「うまくいかなくてイライラするかもしれない」という予測を持たせると、完全にやり遂げられなかったときの対処方法を事前に想定しておくことができます。たとえば、「時間内に切り上げる」という条件を達成できたらプラスポイントを与えるなど、ポジティブに受け止められる予測だと安心して取り組みます。

#### ③「0か100か」の間を予想させる

自分が思い描く状態（イメージ）とやってみてわかる状態（実際）の差は、誰しも感じることでしょう。「完全でなくてもそこそこできている」という状態を自ら受け入れるためには、取り組む前のクールな状態のときに、不完全のレベルを複数想定させます。30%、50%、80%・・・の出来映えのとき、どう振る舞うべきか事前に決めておきます。

### 14、予定変更に対応できず、学習活動に参加できない

事例2 N君は（小2）、急なスケジュール変更が苦手です。自分が決めた手順どおりにやり遂げないとパニックになることがあります。不器用なところがあり、うまく作業ができないと物を投げることがあります。

#### 指導例 ①変化への弱さに配慮して事前に予告する

物事の手順や、物の置き方にこだわるN君は、変化に対する柔軟な適応が難しい子です。運動会シーズンなど普段と異なる時間割が組まれる場合や、雨のために予定が変更になる可能性がある場合には、事前に予定変更の可能性のあることを必ず伝えます。必要であれば、口頭で伝えるだけで

なく、メモ等でスケジュールの入れ替えを見せます。

#### ②パターンの学習に工夫する

「変化に弱い」という特徴は、違う角度から見れば「パターンの学習は得意」とも言えます。朝の会の流れや授業の進め方は決まったパターンを繰り返した方が安定的な力を発揮できます。質問の答え方も枠組みを決める、型にはめるといった工夫が有効です。

#### ③パターン崩しも大切

一度ある手順でパターンを習得できたら、「パターン崩し」を試みます。別のパターンでも学べることを教えてあげるのです。少しずつ対応できるパターンが増えることで、行動の選択肢が増え、パニックが減ります。

#### ④パニック（緊急時）には冷静な対応を

予測不可能なパニックもあります。そんなときには、冷静に、淡々と、あえて低い声で「外に出よう」とクールダウンを勧めます。これは教室から追い出す罰ではありません。離れたほうが早く冷静になれることや、教室外に誘う支援を行うことを、事前にN君に伝えておきましょう。

### 15、様々なつまずきにより、授業中に満足感や達成感を得られない

事例3 集中が続かず、騒いで授業の進行を止めてしまうO君（小4）。授業についていくことができないおとなしいPさん（小6）。自分からは何もしない積極性がないQ君（小5）。このような様々なつまずきにより子どもは授業に集中できず、学習が遅れてしまうという悪循環に陥ってしまいます。

#### 指導例 ①目につきやすく誤解されやすいつまずき

落ち着きがない、フラッと席から離れてしまう、出し抜けて答えてしまう、じっとしてられない・・・などの行動が目立つと、授業が進まないことがあります。「いい加減にしなさい！」といった抽象的な指示を出されると、なぜ叱られているのかわかりません。叱咤、非難の繰り返しが続くと、周囲からわかってもらえない悔しさをつのらせます。指示は短く簡潔にし、できたことを褒めていきましょう。

#### ②気づかれにくく放置されやすいつまずき

書くのが遅い、一斉指導では聞きもらしがある、できる教科とできない教科にバラつきがある・・・などのつまずきは、多くの場合、見過ごされています。困らせるような行動はないため、失敗の繰り返しを放置されていることが多く、学年が進んでから学習が定着していなかったことに気づかれることがあります。活動の節目ごとにきちんとできているか、確認していきましょう。

#### ③学ぶ意欲を失っていく「二次的な影響」

負の経験の積み重ねは、学ぼうとする意欲を乏しくしていきます。聞いてもわからないと、やがて聞こうとしなくなります。やっとうまくでき

なければ、やろうとしなくなります。手伝ってもらってばかりだと、自分からはやらなくなります。これが「二次的な影響」です。失敗を隠そうとしたり、できるふりをしたり、わざとふざけてみたり・・・、学年が上がるにつれてそんな行動が目立ってきます。一人だけできちんと活動ができるかを見守る時間が必要です。

#### ④理解することが最大な支援

うまくいかない背景に、どのような要因があるのか把握することは、授業で目指す満足感や達成感の獲得に貢献しうると思います。その子の良さを認め、もどかしさに思いを馳せることこそが、最大の支援といえるのではないのでしょうか。